校異源氏物語・しゐかもと

きさらきのはつかのほとに兵部卿の宮はつせにまうて給ふるき御願なりけれとおほしもたゝてとしころになりにけるをう治のわたりの御なかやとりのゆかしさにおほくはもよほされ給へるなるへしうらめしといふ人もありけるさとのなのなへてむつましうおほさるゝゆへもはかなしやかむたちめいとあまたつかうまつり給殿上人なとはさらにもいはすよにのこるひとすくなうつかうまつれり六条の院よりつたはりて右大殿しり給所は川よりをちにいとひろくおもしろくてあるにおほむまうけせさせ給へりおとゝもかへさの御むかへにまいりたまふへくおほしたるをにはかなる御物いみのおもくつゝしみ給ふへく申たなれはえまいらぬよしのかしこまり申給へり宮なますさましとおほしたるにさい将の中将けふの御むかへにまいりあひ給へるに中　く心やすくてかのわたりのけしきもつたへよらむと御心ゆきぬおとゝをはうちとけてみえにくゝこと　くしき物に思ひきこえ給へり御この君たち右大弁しゝうのさい将権中将とうの少将くら人の兵衛のすけなとさふらひ給みかときさきも心ことに思ひきこえ給へる宮なれは大方の御おほえもいとかきりなくまいて六条の院の御かたさまはつき　くの人もみなわたくしの君に心よせつかうまつり給ところにつけて御しつらひなとおかしうしなしてこすくろくたきのはむともなとゝりいてゝ心心にすさひくらし給宮はならひ給はぬ御ありきになやましくおほされてこゝにやすらはむの御心もふかけれはうちやすみ給て夕つかたそ御ことなとめしてあそひ給例のかうよはなれたる所は水のをとももてはやしてものゝねすみまさる心ちしてかのひしりの宮にもたゝさしわたるほとなれはをひ風に吹くるひゝきを聞給にむかしのことおほしいてられてふえをいとおかしうもふきとをしたなるかなたれならんむかしの六条院の御ふえのねきゝしはいとおかしけにあい行つきたる音にこそ吹給しかこれはすみのほりてこと　くしきけのそひたるはちしのおとゝの御そうのふえの音にこそにたなれなとひとりこちおはすあはれに久しう成にけりやかやうのあそひなともせてあるにもあらてすくしきにけるとし月のさすかにおほくかそへらるゝこそかひなけれなとの給ついてにもひめ君たちの御有さまあたらしくかゝる山ふところにひきこめてはやますもかなとおほしつゝけら

るさい将の君のおなしうはちかきゆかりにてみまほしけなるをさしもおもひよるましかめりまいていまやうの心あさからむ人をはいかてかはなとおほしみたれつれ　くとなかめ給所は春の夜もいとあかしかたきを心やり給へるたひねのやとりはゑいのまきれにいととうあけぬる心ちしてあかすかへらむことを宮はおほすはる　くとかすみわたれる空にちる桜あれは今ひらけそむるなと色　くみわたさるゝに川そひ柳のおきふしなひく水かけなとおろかならすおかしきをみならひ給はぬ人はいとめつらしくみすてかたしとおほさるさい将はかゝるたよりをすくさすかの宮にまうてはやとおほせとあまたの人めをよきてひとりこきいて給はんふなわたりのほともかろらかにやとおもひやすらひ給ほとにかれより御ふみあり

山風にかすみふきとくこゑはあれとへたてゝみゆるをちのしら浪さうにいとおかしうかき給へり宮おほすあたりのとみ給へはいとおかしうおほいてこの御返はわれせんとて

をちこちの汀になみはへたつともなをふきかよへうちの河風中将はまうて給あそひに心入たる君たちさそひてさしやり給ほとかむすいらくあそひて水にのそきたるらうにつくりおろしたるはしの心はえなとさる方にいとおかしうゆへある宮なれは人〻心して舟よりおり給こゝは又さまことに山さとひたるあしろ屏風なとのことさらにことそきてみところある御しつらひをさる心してかきはらひいといたうしなし給へりいにしへのねなといとになきひき物ともをわさとまうけたるやうにはあらてつき　くひきいて給て一こつてうの心にさくら人あそひ給ふあるしの宮御きむをかゝるついてにと人〻思給へれとさうのことをそ心にもいれすおり　くかきあはせ給みゝなれぬけにやあらむいと物ふかくおもしろしとわかき人〻思しみたり所につけたるあるしいとおかしうし給てよそにおもひやりしほとよりはなまそむ王めくいやしからぬ人あまたおほきみ四位のふるめきたるなとかく人めみるへきおりとかねていとおしかりきこえけるにやさるへきかきりまいりあひてへいしとる人もきたなけならすさるかたにふるめきてよし　くしうもてなし給へりまらうとたちは御むすめたちのすまひ給ふらん御有さま思やりつゝ心つく人も有へしかの宮はまいてかやすきほとならぬ御身をさへところせくおほさるゝをかゝる折にたにとしのひかね給ておもしろき花のえたをおらせ給て御ともにさふらふうへわらはのおかしきして奉り給

山さくらにほふあたりにたつねきておなしかさしをおりてける哉のをむつましみとやありけん御かへりはいかてかはなときこえにくゝおほしわつらふか

ゝるおりのことわさとかましくもてなしほとのふるも中　くにくきことになむ
しはへりしなとふる人ともきこゆれは中君にそかゝせたてまつり給
　かさしおる花のたよりに山かつのかきねをすきぬ春のたひ人のをわきてし
もといとおかしけにらう　くしくかきたまへりけに川風も心わかぬさまにふき
かよふものゝねともおもしろくあそひ給ふ御むかへにとう大納言おほせことに
てまいり給へり人〳〵あまたまいりつとひ物さはかしくてきおひかへり給わかき
人〳〵あかすかへりみのみせられける宮は又さるへきついてしてとおほす花さか
りにてよものかすみもなかめやるほとの見所あるにからのもやまとのもうたと
もおほかれとうるさくてたつねもきかぬなり物さはかしくておもふまゝにもえ
いひやらすなりにしをあかす宮はおほしてしるへなくても御ふみはつねにあり
けり宮もなをきこえ給へわさとけさうたちてももてなさし中　く心ときめきに
もなりぬへしいとすき給へるみこなれはかゝる人なむと聞給かなをもあらぬす
さひなめりとそゝのかし給ふ時〳〵中の君そきこえ給ひめ君はかやうのことたは
ふれにももてはなれ給へる御心ふかさなりいつとなく心ほそき御有さまに春の
つれ　くはいとゝくらしかたくなかめ給ねひまさり給御さまかたちともいよ
　くまさりあらまほしくおかしきも中〳〵心くるしくかたほにもおはせましかは
あたらしうおしきかたのおもひはうすくやあらましなとあけくれおほしみたる
あね君廿五中君廿三にそなり給ける宮はおもくつゝしみ給へきとしなりけり物
心ほそくおほして御おこなひ常よりもたゆみなくし給世に心とゝめ給はねはい
てたちいそきをのみおほせはすゝしきみちにもおもむき給ぬへきをたゝこの御
ことゝゝもにいと　くおしくかきりなき御心つよさなれとかならす今はとみすて
給はむ御心はみたれなむとみたてまつる人もをしはかりきこゆるをおほすさま
にはあらすともなのめにさても人きゝくちおしかるましうみゆるされぬへきき
はの人のま心にうしろみきこえんなとおもひよりきこゆるあらはしらすかほに
てゆるしてむひとゝころ　くよにすみつき給よすかあらはそれをみゆつるかた
になくさめをくへきをさまてふかき心にたつねきこゆる人もなしまれ　くはか
なきたよりにすきことききこえなとする人はまたわか　くしき人の心のすさひに
物まうての中やとりゆきゝのほとのなをさりことにけしきはみかけてさすかに
かくなかめ給有さまなとをしはかりあなつらはしけにもてなすはめさましうて
なけのいらへをたにせさせ給はす三宮そ猶みてはやましとおほす御心ふかゝり
けるさるへきにやおはしけむさい将の中将その秋中納言になり給ぬいとゝにほ
ひまさり給世のいとなみにそへてもおほすことおほかりいかなることゝいふせ

く思わたりし年ころよりも心くるしうてすき給にけむいにしゑさまの思やらるゝにつみかろくなり給はかりおこなひもせまほしくなむかのおい人をはあはれなる物に思をきていちしるきさまならすとかくまきらはしつゝ心よせとふらひ給うちにまうてゝひさしうなりにけるを思いてゝまいり給へり七月はかりに成にけり宮こにはまたいりたゝぬ秋のけしきをゝとはの山ちかく風の音もいとひやゝかにまきの山へもわつかに色つきて猶たつねきたるにおかしうめつらしうおほゆるを宮はまいて例よりもまちよろこひきこえ給て此たひは心ほそけなる物語いとおほく申給なからむ後この君たちをさるへきものゝたよりにもとふらひおもひすてぬ物にかすまへ給へなとおもむけつゝきこえ給へはひとことにてもうけたまはりをきてしかはさらに思給へおこたるましくなん世中に心をとゝめしとはふき侍身にてなにこともたのもしけなきおいさきのすくなさになむはへれとさるかたにてもめくらいはへらむかきりはかはらぬ心さしを御らむししらせんとなむ思給ふるなときこえ給へはうれしとおほひたり夜ふかき月のあきらかにさしいてゝ山のはちかき心ちするにねむすいとあはれにし給てむかし物かたりし給この比の世はいかゝなりにたらむくちうなとにてかやうなる秋の月に御まへの御あそひのおりにさふらひあひたる中にものゝ上すとおほしきかきりとり　くにうちあはせたるひやうしなとこと　くしきよりもよしありとおほえある女御かういの御つほね　くのをのかしゝはいとましく思うはへのなさけをかはすへかめるによふかき程の人のけしめりぬるに心やましくかいしらへほのかにほころひいてたるものゝねなときゝ所あるかおほかりしかなゝに事にもをんなはもてあそひのつまにしつへくものはかなき物から人の心をうこかすくさはいになむ有へきされはつみのふかきにやあらんこの道のやみを思やるにもをのこはいとしもおやの心をみたさすやあらむ女はかきりありていふかひなきかたに思すつへきにもなをいと心くるしかるへきなとおほかたのことにつけての給へるいかゝさおほさゝらむ心くるしく思やらるゝ御心のうち也すへてまことにしか思給へすてたるけにやはへらむみつからのことにてはいかにも　くふかう思しるかたのはへらぬをけにはかなきことなれとこゑにめつる心こそそむきかたきことに侍りけれさかしうひしりたつかせうもされはやたちてまひはへりけむなときこえてあかすひとこゑきゝし御ことのねをせちにゆかしかり給へはうと　くしからぬはしめにもとやおほすらむ御みつからあなたにいり給てせちにそゝのかしきこえ給さうのことをそいとほのかにかきならしてやみ給ぬるいとゝ人のけはひもたえてあはれなるそらのけしきところのさまにわさとなき

御あそひの心にいりておかしうおほゆれとうちとけてもいかてかはひきあはせ
給はむをのつからかはかりならしそめつるのこりはよこもれるとちにゆつりき
こえてんとて宮は仏の御前にいり給ひぬ

　我なくて草の庵りはあれぬともこのひとことはかれしとそ思かゝるたいめ
んもこのたひやかきりならむともの心ほそきにしのひかねてかたくなしきひか
ことおほくもなりぬるかなとてうちなき給まらうと

　いかならむ世にかかれせむなかきよの契むすへる草のいほりはすまひなと
おほやけことゝもまきれはへる比すきて候はむなときこえ給こなたにてかのと
はすかたりのふる人めしいてゝのこりおほかる物かたりなとせさせ給いりかた
の月くまなくさし入てすきかけなまめかしきに君たちもおくまりておはすよの
つねのけさうひてはあらす心ふかう物かたりのとやかにきこえつゝものし給へ
はさるへき御いらへなときこえたまふ三宮いとゆかしうおほいたる物をと心の
うちには思いてつゝ我心なからなを人にはことなりかしさはかり御心もてゆる
ひ給ことのさしもいそかれぬよもてはなれてはたあるましきことゝはさすかに
おほえすかやうにて物をもきこえかはしおりふしの花もみちにつけてあはれを
もなさけをもかよはすにゝくからす物し給あたりなれはすくせことにてほかさ
まにもなり給はむはさすかに口おしかるへう両したる心ちしけりまたよふかき
ほとにかへり給ぬ心ほそくのこりなけにおほいたりし御けしきを思いてきこえ
給つゝさはかしきほとすくしてまうてむとおほす兵部卿の宮もこの秋のほとに
もみちみにおはしまさむとさるへきついてをおほしめくらす御ふみはたえすた
てまつり給をんなはまめやかにおほすらんとも思給はねはわつらはしくもあら
てはかなきさまにもてなしつゝおり　く　にきこえかはし給秋ふかくなり行まゝ
に宮はいみしう物心ほそくおほえ給けれは例のしつかなる所にて念仏をもまき
れなうせむとおほして君たちにもさるへきことときこえ給世のことゝしてついの
わかれをのかれぬわさなめれとおもひなくさまんかたありてこそかなしさをも
さます物なめれまたみゆつる人もなく心ほそけなる御有さまともをうちすてゝ
むかいみしきことされともさはかりのことにさまたけられてなかき世のやみに
さへまとはむかやくなさをかつみたてまつるほとたに思すつる世をさりなんう
しろのことしるへきことにはあらねと我身ひとつにあらすゝき給にし御おもて
ふせにかる　く　しき心ともつかひ給なおほろけのよすかならて人のことにうち
なひきこの山さとをあくかれ給なたゝかう人にたかひたる契ことなる身とおほ
しなしてこゝによをつくしてんと思とり給へひたふるに思なせはことにもあら

すゝきぬる年月なりけりましてをんなはさるかたにたえこもりていちしるくいとをしけなるよそのもときをおはさらむなんよかるへきなとの給ともかくも身のならんやうまてはおほしもなかされすたゝいかにしてかをくれたてまつりては世にかた時もなからふへきとおほすにかく心ほそきさまの御あらましことにいふかたなき御心まとひともになむ心のうちにこそおもひすて給つらめとあけくれ御かたはらにならはいたまうてにはかにわかれ給はむはつらき心ならねとけにうらめしかるへき御有さまになむありけるあすいり給はむとての日は例ならすこなたかなたたゝすみありき給てみ給いとものはかなくかりそめのやとりにてすくひ給ける御すまひの有さまをなからむ後いかにしてかはわかき人のたえこもりてはすくひ給はむと涙くみつゝねんすし給さまいときよけなりおとなひたる人ゝめしいてゝうしろやすくつかうまつれなに事もゝとよりかやすく世にきこえ有ましきゝはの人はするゑのおとろへもつねのことにてまきれぬへかめりかゝるきはになりぬれは人はなにと思はさらめと口おしうてさすらへむ契かたしけなくいとおしきことなむおほかるへき物さひしく心ほそきよをふるは例の事也むまれたるいゑのほとをきてのまゝにもてなしたらむなむきゝみゝにもわか心ちにもあやまちなくはおほゆへきにきはゝしくひとかすめかむと思ともその心にもかなふましきよとならはゆめ　くかろ　くしくよからぬかたにもてなしきこゆなゝとの給またあか月にいて給とてもこなたにわたり給てなからむほと心ほそくなおほしわひそ心はかりはやりてあそひなとはし給へなにことも思にえかなふましき世をおほしいられそなとかへりみかちにて出給ぬふた所いとゝ心ほそくもの思つゝけられておきふしうちかたらひつゝひとり　くなからましかはいかてあかしくらさまし今行するゑもさためなき世にてもしわかるゝやうもあらはなとなきみわらひみたはふれこともまめこともおなし心になくさめかはしてすくし給かのおこなひ給三まい今日はてぬらんといつしかとまちきこえ給夕くれに人まいりてけさよりなやましくてなむえまいらぬかせかとてとかくつくろふとものするほとになむさるは例よりもたいめむ心もとなきをと聞え給へりむねつふれていかなるにかとおほしなけき御そともわたあつくていそきせさせ給てたてまつれなとし給二三日おこたり給はすいかに　くと人たてまつり給へとことにおとろ　くしくはあらすそこはかとなくくるしうなむすこしもよろしくならはいまねんしてなとことはにて聞え給あさりつとさふらひてつかうまつりけるはかなき御なやみとみゆれとかきりのたひにもおはしますらん君たちの御事なにかおほしなけくへき人はみな御すくせといふ物こと　くなれは

御心にかゝるへきにもおはしまさすといよ　くおほしはなるへきことをきこえしらせつゝ今さらにないて給そといさめ申成けり八月廿日のほとなりけりおほかたの空のけしきもいとゝしきころ君たちはあさゆふきりのはるゝまもなくおほしなけきつゝなかめ給あり明の月のいとはなやかにさしいてゝ水のおもてもさやかにすみたるをそなたのしとみあけさせてみいたし給へるにかねのこゑかすかにひゝきてあけぬなりときこゆるほとに人〻きてこの夜なかはかりになむうせ給ぬるとなく　く申す心にかけていかにとはたえす思きこえ給へれとうちきゝ給にはあさましく物おほえぬ心地していとゝかゝることには涙もいつちかいにけんたゝうつふしふし給へりいみしきめもみるめのまへにておほつかなからぬこそつねのことなれおほつかなさそひておほしなけくことことはり也しはしにてもをくれたてまつりて世に有へき物とおほしならはぬ御心ちともにていかてかはをくれしとなきしつみ給へとかきりあるみちなりけれはなにのかひなしあさりとし比契りをき給けるまゝに後の御こともよろつにつかうまつるなき人になり給へらむ御さまかたちをたに今一たひみたてまつらんとおほしの給へといまさらになてうさることかはへるへき日ころも又あひ給ましきことをきこえしらせつれは今はましてかたみに御心とゝめ給ましき御心つかひをならひ給へきなりとのみきこゆおはしましける御有さまをきゝ給にもあさりのあまりさかしきひしり心をにくゝつらしとなむおほしける入道の御ほいはむかしよりふかくおはせしかとかうみゆつる人なき御ことゝものみすてかたきをいけるかきりはあけくれえさらすみたてまつるを世に心ほそき世のなくさめにもおほしはなれかたくてすくひ給へるをかきりあるみちにはさきたち給もしたひ給御心もかなはぬわさ也けり中納言殿にはきゝ給ていとあえなく口おしく今一たひ心のとかにてきこゆへかりけることおほうのこりたる心ちしておほかた世の有さまおもひつゝけられていみしうない給又あひみることかたくやなとの給しをなをつねの御心にもあさ夕のへたてしらぬ世のはかなさを人よりけに思給へりしかはみゝなれて昨日けふと思はさりけるを返〻あかすかなしくおほさるあさりのもとにも君たちの御とふらひもこまやかにきこえ給かゝる御とふらひなと又をとつれきこゆる人たになき御有さまなるはものおほえぬ御心ちともにもとしころの御心はえのあはれなめりしなとをも思しり給よのつねのほとのわかれたにさしあたりては又たくひなきやうにのみみな人の思まとふ物なめるをなくさむかたなけなる御身ともにていかやうなる心地ともし給らむとおほしやりつゝ後の御わさなと有へきことゝもをしはかりてあさりにもとふらひ給こゝにもおい

人ともにことよせて御す経なとのことも思やり給あけぬよの心ちなから九月にもなりぬの山のけしきましてそてのしくれをもよをしかちにともすれはあらそひおつるこのはのをとも水のひゝきも涙のたきもひとつものゝやうにくれまとひてかうてはいかてかゝきりあらむ御いのちもしはしめくらい給はむとさふらふ人〻は心ほそくいみしくなくさめきこえつゝこゝにもねむ仏のそうさふらひておはしましゝかたは仏をかたみにみたてまつりつゝ時〻まいりつかうまつり人〻の御いみにこもりたるかきりはあはれにおこなひてすくす兵部卿の宮よりもたひ　くとふらひきこえ給さやうの御かへりなときこえん心ちもし給はすおほつかなけれは中納言にはかうもあらさなるを我をはなを思はなち給へるなめりとうらめしくおほすもみちのさかりにふみなとつくらせ給はむとていてたち給しをかくこのわたりの御せうようひむなきころなれはおほしとまりて口おしくなん御いみもはてぬかきりあれは涙もひまもやとおほしやりていとおほくかきつゝけ給へりしくれかちなるゆふつかた

　をしかなく秋の山さといかならむこ萩か露のかゝる夕くれたゝ今の空のけしきおほしゝらぬかほならむもあまり心つきなくこそ有へけれかれゆく野へもわきてなかめらるゝ比になむなとありけにいとあまり思しらぬやうにてたひ

くになりぬるをなをきこえ給へなとなかの宮をれいのそゝのかしてかゝせたてまつり給けふまてなからへてすゝりなとちかくひきよせてみるへき物とやは思し心うくもすきにけるひかすかなとおほすに又かきくもりものみえぬ心ちし給へはをしやりてなをえこそかきはへるましけれやう　くかうおきゐられなとしはへるかけにかきりありけるにこそとおほゆるもうとましう心うくてとらうたけなるさまになきしほれておはするもいと心くるし夕くれのほとよりきける御つかひよひすこしすきてそきたるいかてかゝへりまいらんこよひはたひねしてといはせ給へとたちかへりこそまいりなめといそけはいとおしうて我さかしう思しつめ給にはあらねとみわつらひたまひて

　なみたのみきりふたかれる山里はまかきに鹿そもろこゑになくゝろきかみによるのすみつきもたと　くしけれはひきつくろふところもなくふてにまかせてをしつつみていたし給ひつ御つかひはこはたの山のほともあめもよにいとおそろしけなれとさやうの物をちすましきをやえりいて給けむゝつかしけなるさゝのくまをこまひきとゝむるほともなくうちはやめてかた時にまいりつきぬ御まへにてもいたくぬれてまいりたれはろくたまふさき　く御らむせしにはあらぬてのいますこしおとなひまさりてよしつきたるかきさまなとをいつれかいつ

れならむとうちもをかす御らむしつゝとみにもおほとのこもらねはまつとておきおはしまし又御らむするほとのひさしきはいかはかり御心にしむことならんとおまへなる人ゝさゝめききこえてにくみきこゆねふたけれはなめりまたあさきりふかきあしたにいそきおきてたてまつり給

あさきりにともまとはせる鹿の音をおほかたにやはあはれともきくもろこゑはおとるましくこそとあれとあまりなさけたゝんもうるさしひとゝころの御かけにかくろへたるをたのみところにてこそなにことも心やすくてすこしつれ心より外になからへておもはすなることのまきれつゆにてもあらはうしろめたけにのみおほしをくめりしなき御たまにさへきすやつけたてまつらんとなへていとつゝましうおそろしうてきこえ給はすこの宮なとをかろらかにをしなへてのさまにも思きこえ給はすなけのはしりかいたまへる御ふてつかひことのはもおかしきさまになまめき給へる御けはひをあまたはみしり給はねとみたまひなからそのゆへ　くしくなさけあるかたにことをませきこえむもつきなき身の有さまともなれはなにかたゝかゝる山ふしたちてすくしてむとおほす中納言殿の御かへりはかりはかれよりもまめやかなるさまにきこえ給へはこれよりもいとけうとけにはあらすきこえかよひ給御いみはてゝもみつからまうて給へりひむかしのひさしのくたりたるかたにやつれておはするにちかう立より給てふる人めしいてたりやみにまとひ給へる御あたりにいとまはゆくにほひみちていりおはしたれはかたはらいたうて御いらへなとをたにえし給はねはかやうにはもてなひ給はてむかしの御心むけにしたかひきこえ給はんさまならむこそきこえうけ給るかひあるへけれなよひけしきはみたるふるまひをならひ侍らねはひとつてにきこえはへるはことのはもつゝきはへらすとあれはあさましう今まてなからへはへるやうなれと思さまさんかたなき夢にたとられはへりてなむ心より外に空のひかりみはへらむもつゝましうてはしちかうもえみしろきはへらぬときこえ給へれはことゝいへはかきりなき御心のふかさになむ月日のかけは御心もてはれ　くしくもていてさせ給はゝこそつみもはへらめゆくかたもなくいふせうおほえはへり又おほさるらむはし　くをもあきらめきこえまほしくなむと申給へはけにこそいとたくひなけなめる御有さまをなくさめきこえ給御心はえのあさからぬほとなときこえしらす御心ちにもさこそいへやう　く心しつまりてよろつ思しられ給へはむかしさまにてもかうまてはるけきのへをわけいり給へる心さしなとも思しり給へしすこしゐさりより給へりおほすらんさま又の給契しことなといとこまやかになつかしういひてうたてをゝしきけはひなとはみえ

給はぬ人なれはけうとくすゝろはしくなとはあらねとしらぬ人にかくこゑをき
かせたてまつりすゝろにたのみかほなることなともありつるひころを思つゝく
るもさすかにくるしうてつゝましけれとほのかにひとことなといらへきこえ給
さまのけによろつ思ほれ給へるけはひなれはいとあはれときゝたてまつり給ふ
くろき木丁のすきかけのいと心くるしけなるにましておはすらんさまほのみし
あけくれなと思いてられて

　色かはるあさちをみてもすみそめにやつるゝ袖を思ひこそやれとひとりこ
とのやうにのたまへは

　色かはる袖をはつゆのやとりにてわか身そさらにをき所なきはつるゝいと
はとすゑはいひけちていといみしくしのひかたきけはひにていり給ぬなりひき
とゝめなとすへきほとにもあらねはあかすあはれにおほゆおい人そこよなき御
かはりにいてきてむかし今をかきあつめかなしき御ものかたりともきこゆあり
かたくあさましきことゝもをもみたる人なりけれはかうあやしくおとろへたる
人ともおほしすてられすいとなつかしうかたらひ給いはけなかりしほとにこ院
にをくれたてまつりていみしうかなしき物は世なりけりと思しりにしかはひと
ゝなり行よはひにそへてつかさくらゐ世中のにほひもなにともおほえすなんた
ゝかうしつやかなる御すまゐなとの心にかなひ給へりしをかくはかなくみなし
たてまつりなしつるにいよ　くゝいみしくかりそめの世の思しらるゝ心ももよほ
されにたれと心くるしうてとまり給へる御ことゝものほたしなときこえむはか
け　くしきやうなれとなからへてもかの御ことあやまたすきこえうけたまはら
まほしさになんさるはおほえなき御ふる物かたりきゝしよりいとゝ世中にあと
ゝめむともおほえすなりにたりやうちなきつゝの給へはこの人はましていみし
くなきてえもきこえやらす御けはひなとのたゝそれかとおほえ給にとし比うち
わすれたりつるいにしへの御ことをさへとりかさねてきこえやらむかたもなく
おほゝれゐたりこの人はかの大納言の御めのとこにてちゝはこのひめ君たちの
母きたのかたのはゝかたのをち左中弁にてうせにけるかこなりけりとしころと
をきくににあくかれはゝ君もうせ給てのちかのとのにはうとくなりこの宮には
たつねとりてあらせ給なりけり人もいとやむことなからすみやつかへなれにた
れと心ちなからぬ物に宮もおほしてひめ君たちの御うしろみたつ人になし給へ
るなりけりむかしの御ことはとしころかくあさゆふにみたてまつりなれ心へた
つるくまなく思きこゆ君たちにもひとことうちいてきこゆるついてなくしのひ
こめたりけれと中納言の君はふる人のとはすかたりみなれいのことなれはをし

なへてあは　くしうなとはいひひろけすともいとはつかしけなめる御心ともにはきゝをき給へらむかしとをしはからるゝかねたくもいとおしくもおほゆるにそ又もてはなれてはやましとおもひよからるゝつまにもなりぬへき今はたひねもすゝろなる心ちしてかへり給にもこれやかきりのなとの給しをなとかさしもやはとうちたのみて又みたてまつらすなりにけむ秋やはかはれるあまたの日かすもへたてぬほとにおはしにけむかたもしらすあえなきわさなりやことに例のひとめいたる御しつらひなくいとことそき給めりしかといと物きよけにかきはらひあたりおかしくもてない給へりし御すまゐもたいとこたちいていりこなたかなたひきへたてつゝ御ねむすのくともなとそかはらぬさまなれと仏はみなかのてらにうつしたてまつりてむとすときこゆるをきゝ給にもかゝるさまのひとかけなとさへたえはてんほとゝまりて思給はむ心ちともをくみきこえ給もいとむねいたうおほしつゝけらるいたくくれはへりぬと申せはなかめさしてたち給にかりなきてわたる

秋きりのはれぬ雲ゐにいとゝしくこのよをかりといひしらすらむ兵部卿の宮にたいめんし給時はまつこの君たちの御ことをあつかひくさにし給今はさりとも心やすきをとおほして宮はねん比に聞え給けりはかなき御かへりもきこえにくゝつゝましきかたにをむなかたはおほいたりよにいといたうすき給へる御名のひろこりてこのましくえむにおほさるへかめるもかういとうつもれたるむくらのしたよりさしいてたらむてつきもいかにうゐ　くしくふるめきたらむなと思くし給へりさてもあさましうてあけくらさるゝは月日成けりかくたのみかたかりける御よを昨日今日とは思はてたゝおほかたさためなきはかなさはかりをあけくれのことにきゝみしかと我も人もをくれさきたつほとしもやはへむなとうち思けるよきしかたを思つゝくるもなにのたのもしけなる世にもあらさりけれとたゝいつとなくのとかになかめすくしものおそろしくつゝましきこともなくてへつる物を風のをともあらゝかに例みぬ人かけもうちつれこはつくれはまつむねつふれて物おそろしくわひしうおほゆることさへそひにたるかいみしうたへかたきことゝふた所うちかたらひつゝほすよもなくてすくし給にとしもくれにけり雪あられふりしくころはいつくもかくこそはある風のをとなれと今はしめて思いりたらむやますみの心ちし給ふをむなはらなとあはれとしはかはりなんとす心ほそくかなしきことをあらたまるへき春まちいてゝしかなと心をけたすいふもありかたき事かなときゝ給むかひの山にも時〻の御念仏にこもり給しゆへこそ人もまいりかよひしかあさりもいかゝとおほかたにまれにをとつ

れきこゆれと今はなにしにかはほのめきまいらむいとゝ人めのたえはつるもさるへきことゝ思なからいとかなしくなんなにともみさりし山かつもおはしまさて後たまさかにさしのそきまいるはめつらしくおもほえ給このころのことゝてたきゝこのみひろひてまいる山人ともありあさりのむろよりすみなとやうの物たてまつるとてとしころにならひはへりにける宮つかへの今とてたえはつらんか心ほそさになむときこえたりかならす冬こもる山風ふせきつへきわたきぬなとつかはしゝをおほしいてゝやり給ほうしはらわらはへなとのゝほり行もみえみみえすみいとゆきふかきをなく　くたちいてゝみをくり給御くしなとをろいたまうてけるさるかたにておはしまさましかはかやうにかよひまいる人もをのつからしけからましいかにあはれに心ほそくともあひみたてまつることたえてやまゝしやはなとかたらひ給ふ

君なくて岩のかけみちたえしより松の雪をもなにとかはみるなかの宮

おく山の松葉につもる雪とたにきえにし人を思はましかはうらやましくそ又もふりそふや中納言の君あたらしきとしはふとしもえとふらひきこえさらんとおほしておはしたりゆきもいとゝころせきによろしき人たちにみえすなりにたるをなのめならぬけはひしてかろらかにものし給へる心はえのあさうはあらす思しられ給へは例よりはみいれておましなとひきつくろはせ給すみそめならぬ御火をけおくなるとりいてゝちりかきはらひなとするにつけても宮のまちよろこひ給し御けしきなとを人ゝもきこえいつたいめんし給ことをはつゝましくのみおほいたれと思くまなきやうに人の思給へれはいかゝはせむとてきこえ給うちとくとはなけれとさき　くよりはすこしことのはつゝけてものなとの給へるさまいとめやすく心はつかしけなりかやうにてのみはえすくしはつましと思なり給もいとうちつけなる心かなゝをうつりぬへきよなりけりと思ゐ給へり宮のいとあやしくうらみ給ふことのはへるかなあはれなりし御ひとことをうけ給りをきしさまなとことのついてにもやもらしきこえたりけんまたいとくまなき御心のさかにてをしはかり給にやはへらんこゝになむともかくもきこえさせなすへきとたのむをつれなき御けしきなるはもてそこなひきこゆるそとたひ

くゑんし給へは心より外なることゝ思たまふれとさとのしるへいとこよなうもえあらかひきこえぬをなにかはいとさしもゝてなしきこえ給はむすい給へるやうに人はきこえなすへかめれと心の底あやしくふかうおはする宮なりなをさりことなとの給わたりの心かろうてなひきやすなるなとをめつらしからぬものに思おとし給にやとなむきくこともはへるなにことにもあるにしたかひて心を

たつるかたもなくおとけたる人こそたゝ世のもてなしにしたかひてとあるもかゝるもなのめにみなしすこし心にたかふふしあるにもいかゝはせむさるへきそなとも思なすへかめれは中　く心なかきためしになるやうもありくつれそめてはたつたの川のにこるなをもけかしいふかひなくなこりなきやうなることなともみなうちましるめれ心のふかうしみ給ふへかめる御心さまにかなひことにそむくことおほくなと物し給はさらむをはさらにかろ　くしくはしめをはりたかふやうなることなとみせ給ましきけしきになむ人のみたてまつりしらぬことをいとようみきこえたるをもしにつかはしくさもやとおほしよらはそのもてなしなとは心のかきりつくしてつかうまつりなむかし御なかみちのほとみたりあしこそいたからめといとまめやかにていひつゝけ給へは我御身つからのことゝはおほしもかけす人のおやめきていらへんかしとおほしめくらし給へとなをいふへきことのはもなき心ちしていかにとかはかけ　くしけにの給つゝくるに中

　くきこえんこともおほえはへらてとうちわらひ給へるもおいらかなるものからけはひおかしうきこゆかならす御みつからきこしめしおふへきことゝも思給へすそれは雪をふみわけてまいりきたる心さし計を御らんしわかむ御このかみ心にてもすくさせ給てよかしかの御心よせはまたことにそはへへかめるほのかにの給さまもはへめりしをいさやそれも人のわきゝこえかたきこと也御返なとはいつかたにかはきこえ給とゝひ申給にようそたはふれにもきこえさりけるなにとなけれとかうの給にもいかにはつかしうむねつふれましと思にえこたへやり給はす

　雪ふかき山のかけはしきみならてまたふみかよふあとをみぬかなとかきてさしいて給へれは御物あらかひこそなか　く心をかれはへりぬへけれとて

　つらゝとち駒ふみしたく山川をしるへしかてらまつやわたらむさらはしもかけさへみゆるしるしもあさうは侍らしときこえ給へは思はすにものしうなりてことにいらへ給はすけさやかにいと物とをくすくみたるさまにはみえ給はねといまやうのわか人たちのやうにえむけにももてなさていとめやすくのとかなる心はえならむとそをしはかられ給ひとの御けはひなるかうこそはあらまほしけれと思にたかはぬ心ちし給ことにふれてけしきはみよるもしらすかほなるさまにのみもてなし給へは心はつかしうてむかし物かたりなとをそものまめやかにきこえ給くれはてなはゆきいとゝ空もとちぬへうはへりと御ともの人ゝこはつくれはかへり給なむとて心くるしうみめくらさるゝ御すまゐのさまなりやたゝ山さとのやうにいとしつかなる所の人もゆきましらぬはへるをさもおほしか

けはいかにうれしくはへらむなとの給もいとめてたかるへきことかなとかたみゝにきゝてうちゑむ女はらのあるを中の宮はいとみくるしういかにさやうには有へきそとみきゝゐ給へり御くた物よしあるさまにてまゐり御ともの人〻にもさかなゝとめやすきほとにてかはらけさしいてさせ給けり又御うつりかもてさはかれしとのゐ人そかつらひけとかいふつらつき心つきなくてあるはかなの御たのもし人やとみ給てめしいてたりいかにそおはしまさて後心ほそからむなととひ給うちひそみつゝこゝろよはけになく世中にたのむよるへもはへらぬ身にてひとゝころの御かけにかくれて卅よねんをすくしはへりにけれはいまはましての山にましりはへらむもいかなる木の本をかはたのむへくはへらむと申ていとゝ人わろけなりおはしましゝかたあけさせ給へれはちりいたうつもりて仏のみそ花のかさりおとろへすおこなひ給ひけりとみゆる御ゆかなとゝりやりてかきはらひたりほいをもとけはとちきりきこえしこと思いてゝ

たちよらむかけとたのみししゐかもとむなしきとこになりにける哉とてはしらによりゐ給へるをもわかき人〻はのそきてめてたてまつる日くれぬれはちかき所　くにみそうなとつかうまつる人〻にみまくさとりにやりける君もしり給はぬにゐなかひたる人〻はおとろ　くしくひきつれまいりたるをあやしうはしたなきわさかなと御らむすれとおい人にまきらはし給つおほかたかやうにつかうまつるへくおほせをきていて給ひぬとしかはりぬれは空のけしきうらゝかなるにみきはのこほりとけたるを有かたくもとなかめ給ひしりのはうよりゆきゝえにつみてはへるなりとてさはのせりわらひなとたてまつりたりいもゐの御たいにまいれる所につけてはかゝるくさきのけしきにしたかひて行かふ月日のしるしもみゆるこそおかしけれなと人〻のいふをなにのおかしきならむときゝ給

君かおるみねのわらひとみましかはしられやせまし春のしるしも

雪ふかき汀のこせりたかためにつみかはやさんおやなしにしてなとはかなきことゝもをうちかたらひつゝあけくらし給中納言殿よりも宮よりもをりすくさすとふらひきこえ給うるさくなにとなきことおほかるやうなれは例のかきもらしたるなめり花さかりのころ宮かさしをおほしいてゝそのおりみきゝ給し君たちなともいとゆへありしみこの御すまゐを又もみすなりにしことなと大かたのあはれをくち　くきこゆるにいとゆかしうおほされけり

つてにみしやとのさくらをこの春はかすみへたてすおりてかさゝむと心をやりての給へりけりあるましきことかなとみ給なからいとつれ　くなるほとに

みところある御ふみのうはへはかりをもてけたしとて

いつことかたつねておらむすみそめにかすみこめたるやとの桜をなをかくさしはなちつれなき御けしきのみゝゆれはまことに心うしとおほしわたる御心にあまり給てはたゝ中納言をとさまかうさまにせめうらみきこえ給へはおかしと思なからいとうけはりたるうしろみかほにうちいらへきこえてあためいたる御心さまをもみあらはす時　くはいかてかゝらんにはなと申給へはみやも御心つかひし給へし心にかなふあたりをまたみつけぬほとそやとの給おほとのゝ六の君をおほしいれぬ事なまうらめしけにおとゝもおほしたりけりされとゆかしけなきなからひなるうちにもおとゝのこと　くしくわつらはしくてなに事のまきれをもみとかめられんかむつかしきとしたにはの給てすまゐ給そのとし三条の宮やけて入道の宮も六条の院にうつろひ給ひなにくれと物さはかしきにまきれてうちのわたりをひさしうをとつれきこえ給はすまめやかなる人の御心は又いとことなりけれはいとのとかにをのか物とはうちたのみなからをむなの心ゆるひ給はさらむかきりはあされはみなさけなきさまにみえしと思つゝむかしの御心わすれぬかたをふかくみしり給へとおほすそのとしつねよりもあつさを人わふるに河つら涼しからむはやと思いてゝにはかにまうて給へりあさすゝみのほとにいて給けれはあやにくにさしくる日かけもまはゆくて宮のおはせしにしのひさしにとのゐ人めしいてゝおはすそなたのもやの仏の御まへにきみたちものし給けるをけちかゝらしとてわか御かたにわたり給御けはひしのひたれとをのつからうちみしろき給ほとちかうきこえけれはなをあらしにこなたにかようさうしのはしのかたにかけかねしたる所にあなのすこしあきたるをみをき給へりけれはとにたてたるひやうふをひきやりてみ給こゝもとに木丁をそへたてたるあなくちおしと思てひきかへるおりしも風のすたれをいたうふきあくへかめれはあらはにもこそあれその木丁をしいてゝこそといふ人あなりおこかましきものゝうれしうてみ給へはたかきもみしかきも木丁をふたまのすにをしよせてこのさうしにむかいてあきたるさうしよりあなたにとおらんとなりけりまつひとりたちいてゝ木丁よりさしのそきてこの御ともの人ゝのとかうゆきちかひすゝみあへるをみ給ふなりけりこきにひいろのひとへにくわんさうのはかまもてはやしたる中　くさまかはりてはなやかなりとみゆるはきなし給へる人からなめりおひはかなけにしなしてすゝひきかくしてもたまへりいとそひやかにやうたひおかしけなる人のかみうちきにすこしたらぬほとならむとみえてするまてちりのまよひなくつや　くとこちたううつくしけなりかたはらめなとあなら

うたけとみえてにほひやかにやはらかにおほときたるけはひ女一の宮もかうさまにそおはすへきとほのみたてまつりしも思くらへられてうちなけかるまたゐさりいてゝかのさうしはあらはにもこそあれとみをこせ給へるよういうちとけたらぬさましてよしあらんとおほゆかしらつきかむさしのほと今すこしあてになまめかしきさまなりあなたに屏風もそへてたてゝはへりついそきてしものそき給はしとわかき人〻なに心なくいふありいみしうもあるへきわさかなとてうしろめたけにゐさりいり給ふほとけたかう心にくきけはひそひてみゆくろきあはせひとかさねおなしやうなるいろあひをき給へれとこれはなつかしうなまめきてあはれけに心くるしうおほゆかみさはらかなるほとにおちたるなるへしすゐすこしほそりていろなりとかいふめるひすひたちていとおかしけにいとをよりかけたるやうなりむらさきのかみにかきたる経をかたてにもち給へるてつきかれよりもほそさまさりてやせ　くなるへしたちたりつるきみもさうしくちにゐてなにことにかあらむこなたをみをこせてわらひたるいとあひきやうつきたり